

95 号車「SPOON リジカラ CIVIC」、デビュー戦は 3 位表彰台



4 月 21 日(日)、宮城県のスポーツランド SUGO(1 周 3,737.5m)にて今年の「ENEOS スーパー耐久シリーズ 2024 Empowered by BRIDGESTONE」グループ 1 開幕戦 4 時間レースが行われ、予選クラス 2 位からスタートした 95 号車「SPOON リジカラ CIVIC」(山田英二/小出峻/ピストン西沢)は、再デビュー戦をクラス 3 位表彰台で終わりました。

本年シリーズの開幕戦となる今回の「SUGO スーパー耐久 4 時間レース」には、8 クラス合計 56 台がエントリー。95 号車 SPOON リジカラ CIVIC は、ST-2 クラスに組み込まれ他の同クラス 7 台と共に計 25 台のグループ 1 として予選と決勝を戦うこととなります。レース前には、現在の主管団体であるスーパー耐久機構(STO)が発展解消され、6 月より一般社団法人「スーパー耐久未来機構」(STMO)として発足すると公式にアナウンスされ、自動車を取り巻く社会課題の解決に向けて今後シリーズの発展を強力に推進していくことが発表されました。

TEAM SPOON は、3 月中旬にシェイクダウンしたばかりの CIVIC TYPE-R レースカーを約 1 ヶ月間のインターバルの間にアップデート。開幕戦レースウィークにも積極的に走り込みを進めました。今回の B ドライバーは小出峻が務めますが、今回はドライバー登録せず次戦富士 24 時間レースにはエントリーする予定の三井優介も揃いのレーシングスーツを着てチームの活動に参加しています。

このシリーズは、今年から予選方式がノックアウト方式に変更となっています。CIVIC TYPE-R が 3 台、その他の車種が 4 台参戦している ST-2 クラスでは、全 7 台のうち A ドライバー予選上位の 4 台が、B ドライバー予選で Q2A グループ、それ以外が Q2B グループの振り分けになります。95 号車 SPOON リジカラ CIVIC は、A ドライバーの山田が 2 番手となって Q2A に進出し、B ドライバーの小出が僅差の 2 番手タイムを記録。クラス 2 番グリッドを獲得しています。山田は、「Q2A 進出が使命だったので、ミスなく走れば良いと思っていました。思い通りの走りができたと同タイムが出せたのですが、225 号車が先にタイムを記録しているということでオレは 2 番手が確定しています。クルマとしてバランスは良いのですが、まだまだ煮詰める余地はあるので、今後、もっと速いタイムを出したいと思います」、と語っていました。

決勝レースでは、スタートドライバーの山田が、クラストップの 225 号車 GR ヤリスの背後からオーバーテイクのチャンスをついて周回。すると 16 周目に 225 号車がピットインしたことで 95 号車 CIVIC TYPE-R がレースリーダー

一となりました。しかしその後、ハイペースで追いつけてきた 225 号車に先行を許すこととなります。スタートから 1 時間を経過した時点で、第 4 コーナー先でクラッシュが発生してセイフティカー(SC)が導入されると、そのタイミングで山田はピットインし、西沢にドライバー交代。SC 終了後に再び 95 号車はピットに入り、レース残り 2 時間の時点で小出がコースに戻っていきました。レースは、225 号車がクラストップ、その後ろに 72 号車 CIVIC TYPE-R が続き、3 番手で 95 号車 TYPE-R が先行車を追う形となります。小出は、安定したペースを守りながら周回し、そのまま 147 周を終えてチェッカーフラッグを受けてクラス 3 位表彰台を獲得しました。

95 号車のデビューレースにロングステントを任された小出は、「SUPER FORMULA や SUPER GT でもっとしんどいレースを経験しているので、体力的にはなんともありませんでした。TEAM SPOON として復帰戦で 3 位ポディウムという結果は、とてもポジティブだと思いますが、自分としては CIVIC 勢トップを取りたかったので悔しい気持ちがいっぱいです。今回トップとなった GR ヤリスは確かに速いですが、僕らもまだ伸び代は十分あります。もっともっと良くなっていきたいですね」と語っています。また、ショートステントで交代となった西沢は、「お疲れ様、というほど走れてないです。テストからチームに参加し、体のコンディションも上げてきました。タイムも上がってきていて、さあこれからという感じだったのですが、色々あって僕の出番は超ショートステントになってしまいました。それでも楽しかったです。クルマはテストの時からさらに進化していて、さすが老舗チームですね。また、ヤングドライバーふたりのイキが良いので、山田がだいぶ興奮しています。僕も刺激を受けて、チームは良い雰囲気になっていると思います」とコメントしていました。

【チーム監督原剛】

「予選まではノーミスで、2 番手を得ることができました。決勝では、まず最初のステントで無線プラグが外れてしまい、ドライバーと交信ができないトラブルがありました。そのため SC 時のピットインのタイミング指示がうまくいかず、ピットが対応できていなかったのが反省点です。そこで作戦を変更せざるを得なくなり、小出さんに長いステントを走ってもらうことになりました。レースでは、水温上昇などの症状も出たので、ニューカーならではのマイナートラブルがまだ消し切れていなかったのは事実です。それでも、課題をいかに克服して次に繋げるかがウチのやりたいことですし、しっかり全員でカバーして対応していきます。より良いクルマ作りを通じて、チームとして更に強く成長していきたいと思います。今後も応援をどうぞよろしくお願いいたします」

5 月 8 日に富士スピードウェイで 24 時間レースに向けた公式テストがあり、その後シーズンハイライトの第 2 戦富士 24 時間レースを迎えます。